

ふりがな 氏名	おがた こうすけ	都道府県	京都府	
	緒方 滉介			
所属/肩書	京都大学経済学部			
関心・活動のSDGs				
私のESD活動	実際に中学校や高校に行って中高生に社会課題・SDGs やキャリアとは何かを伝える			

## 活動の概要

上記の活動において、私達は講義という形を取りつつワークショップ形式で生徒に考えてもらったり、ロールプレイングを通して社会の現状を知ってもらおうとしています。例えば、日本の女性専用車両など男女格差問題について双方の視点から考えるコンテンツを作ったり、フェアトレードについて商人役や農民役に分かれて交渉を体験するというワークを取り入れました。

また、直近の取り組みとしては生徒達にこれからのキャリアについて考えてもらうことを通じて社会に対してもっと関心を持ってもらうことを目指した授業も展開しており、多角的な模索をしているところです。

成果については、昨年一年間で計12の学校(重複する学校もあり)や国際系イベントで授業をして一部社会人を含む500人ほどの方々に授業を体験して頂きました。加えて、民間の海外旅行を斡旋する企業とも連携して実際にビジネスとして金銭が生じる形で授業を行いました。

私達の授業の根幹となるのが中高生が関心を持ってないでいる状況をどのように変えるかということであり、「無関心→関心」というコンセプトのもとできる限り生徒の興味を引くことが重要なポイントとなっています。

・アイセック京都大学委員会 Twitter [https://twitter.com/AIESEC\\_Kyoto/status/1133606425068941312](https://twitter.com/AIESEC_Kyoto/status/1133606425068941312)

## 私が考える教育の未来像

中高生が様々な選択肢をもてる教育こそが理想であると考えます。現在の中高生は受験と部活で日々を追われていて、その他の社会のことについて考えることができていない。自分も高校のときはそうだった。そして、勉強＝絶対的な指標として勉強ができない生徒は排除されていくというのが現状だろう。しかし、社会に目を向けてみると勉強では還元できない様々な可能性があふれており、そうした可能性が個々のその後の人生、ないしは他人の人生すら良い方向に変えていくことができるのだと思う。だからこそ、そうしたことを知って、触れていくこそが本当に有意義な教育に繋がっていくのではないかと思います。

## 私の強み、活かせる経験やスキル

自らの強みとしてあげられるのがファシリテーションスキルだ。実際に学校で授業をしたりする中で、どのようにすれば生徒の意見を引き出すことができるかについて常に考えてきた。また、上記の活動において自分はチームのリーダーという立ち位置にいて、メンバーが授業の目的やその流れの整合性について考える時に常に全体の場を把握して議論を進展させようとつとめてきた。自分の意見を出しつつ場の議論を促進するのは得意であり、それが今回のイベントでも生きてくると思う。